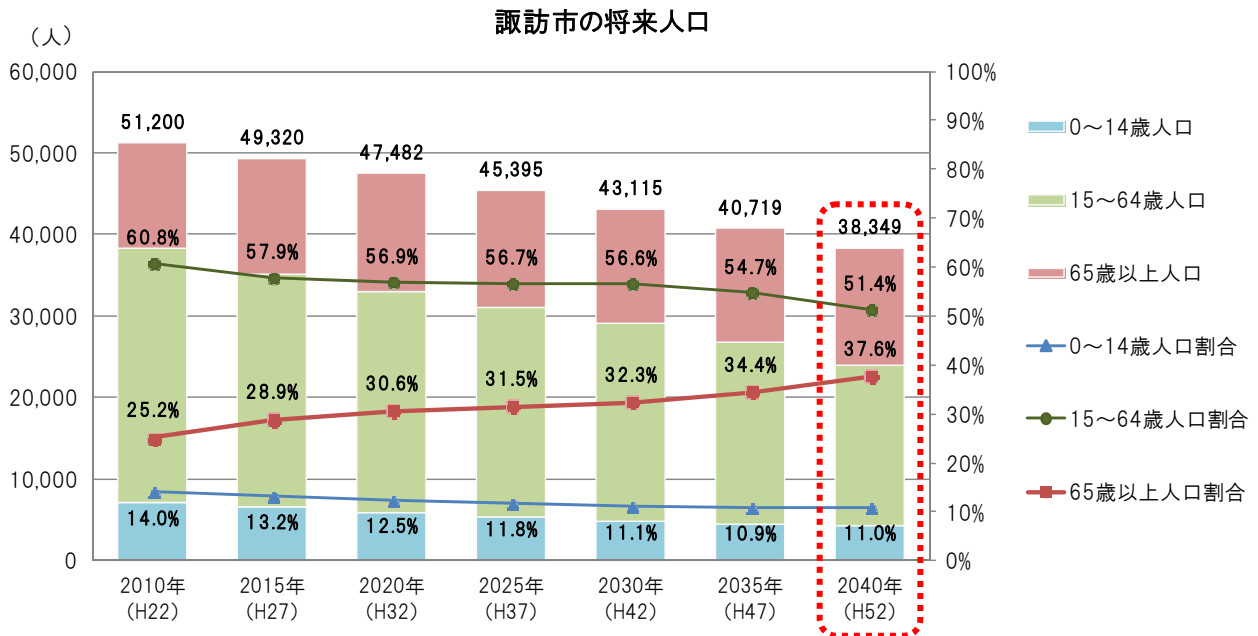


①これからのまちづくりの課題

<人口減少と高齢化>

これからは人口が減り、高齢者が多くなることが予測されています。

現在の諏訪市の人口：約5万人 ⇒ 将来（2040年）の人口：**約3万8千人**
将来（2040年）は**3人に1人が65歳以上**となり、子どもや働く人が少なくなります。



資料：国立社会保障・人口問題研究所 『日本の地域別将来推計人口』(平成 25 年3月推計)

<自動車依存率の高まり>

自動車で移動する人が多くなっていますが、高齢化が進むと、車を運転できない人が増えていきます。

高齢になって車の運転ができない人が増えると、生活が不便になります。

<農地や宅地の荒廃>

人口減少や高齢化が進むと、**空き家が増えたり、田畑を耕作する人が減り、荒廃した農地が増える可能性があります。**

<建物や道路などの老朽化>

古い建物や道路が多くなり、災害が発生した時に、被害が大きくなる可能性があります。また、将来、人口の減少により税収が減少した場合、**古い建物や道路をすべて新しくすることは難しくなります。**



これから人口が減ると、空き家が増えたり、建物や道路を新しくすることが難しくなったり、心配なことがたくさんあるね。
これからはどんなまちづくりが必要なの？

②これからのまちづくり

まちづくりの課題

人口減少

自動車依存社会

高齢化



空き家や荒廃農地の増加

建物や道路等の老朽化



課題への対応策

無秩序な市街化の抑制

適正な人口密度の維持

誰もが移動しやすい社会の実現

道路等を維持するための経費の節減

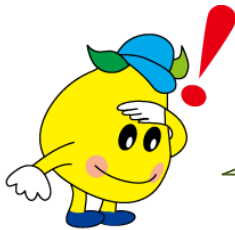
優良農地の保全



今後のまちづくり

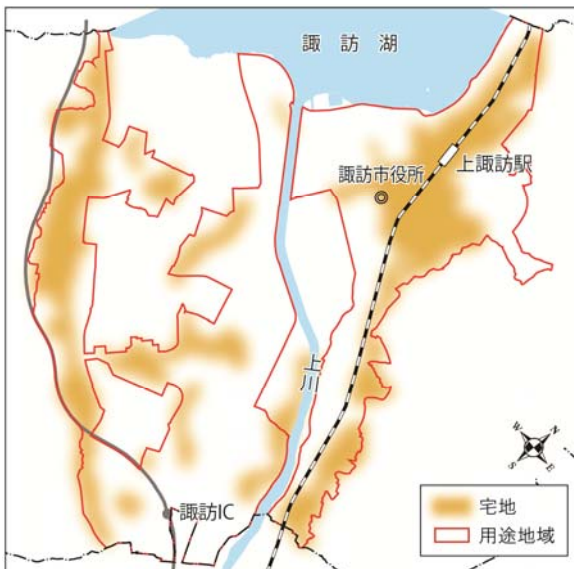
利便性の高い公共交通で結ばれたコンパクトなまちづくり

⇒ 「立地適正化計画」の策定

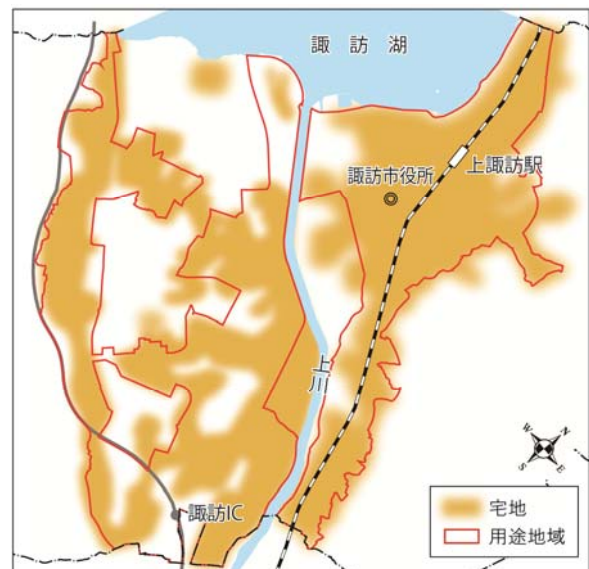


宅地がずいぶん広がったね。これからはみんなが移動しやすいコンパクトなまちづくりが必要なんだね。でも、「立地適正化計画」ってなに？

昭和30年頃（人口約4万3千人）の宅地



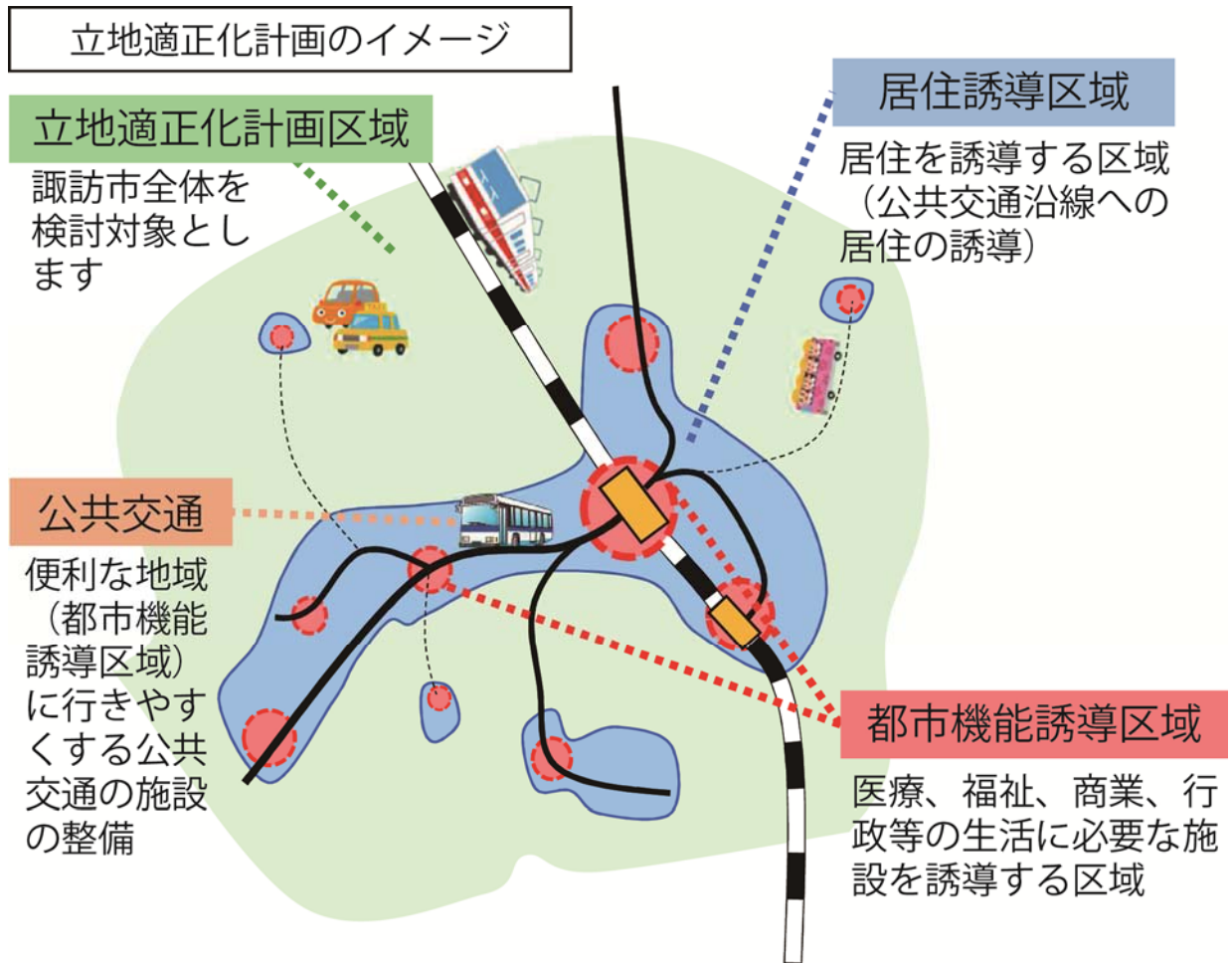
近年（人口約5万人）の宅地



③立地適正化計画とは？

諏訪市では、これから人口が減り、高齢者が多くなっていきます。そのなかでも、誰もが暮らしやすいまちにしていくための取り組みとして、「立地適正化計画」をつくります。

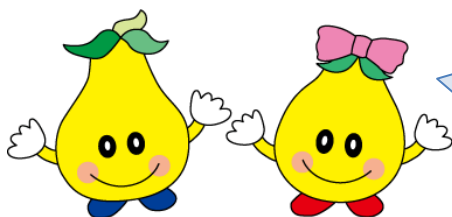
「立地適正化計画」は、まち全体をみて、住宅や医療・福祉・商業・行政等の施設をより利用しやすい場所に誘導したり、公共交通をより使いやすくするための方法を記載した計画です。



これからのまちづくり：利便性の高い公共交通で結ばれたコンパクトなまちづくり

公共交通沿線に居住を誘導する ⇒

コンパクトシティ+ネットワーク



安心して快適に暮らせるまちを、将来もずっと維持していくために、これからのまちの姿を見直していく必要があるんだね。

キーワードは「コンパクトシティ+ネットワーク」だね！

④ 今後の計画策定の流れ

